

駒澤大学が学生と参加を予定の門前祭礼・イベント【2026年版】

2月

【門前区春季例大祭】昨年引き続き参列させていただきました。

【万歳楽土(走出区春季例大祭)】参列させていただきました。

3月

【内保・ふきのと祭り】教員が参加させていただきました。

【高根尾獅子舞・再開支援】学生がカヤの中に入って支援します。昨年からビデオ遠隔で学び練習していました。

【鹿磯漁師祭り(チンチクリン)】学生がカヤの中に入ります。

【雪割草まつり】昔の祭りの写真展や雪割草販売の手伝いをします。

7月

【ごうらい祭り】(検討中です)

【浦上大祭】約20名の学生が神輿、旗持ちなどに参加します。

【道下夏祭り】出店の運営などのお手伝いを検討しています。

8月

【皆月山王祭】曳山や旗持ちのお手伝いを希望しています。

【たいまつ・花火大会】警備や準備・片付けを手伝います。

【本郷夏祭り】お祭りの写真展などのサポートを構想しています。

【黒島天領祭】学生派遣を予定しています。

などなど...

門前の祭礼から

生まれる「新しい伝承」



門前復興研究

第4号

Learning Crisis研究会

連絡先: dsat.shibata@gmail.com

発行所:

東京都世田谷区駒沢1-23-1

駒澤大学 柴田邦臣研究室

「門前復興研究」は「ひと・健康・未来研究財団」の助成で発行しております。

これからの能登ならではの、祭りと伝承を

2026年も門前では、

多くの祭りが復活・開催

される予定です。そのうちいく

つかで、駒澤大学は若い学生と

一緒に参加し、準備から開催、直

会まで盛り上げてまいります。

この門前町で続く、勇壮で美

しい祭りが、この時代にあうよ

うな「新しい伝承」と呼ぶべき祭

りとして、引き継がれていくお

手伝いを、ぜひ続けていきたい

と思っています。ぜひどうぞ

よろしくお願いいたします。

祭りに参加した学生の感想

● 祭では、お神輿の一体感や獅子舞の踊りに心を奪われ、門前町全体の絆や結び付きへのリスpektや敬意が表れていました。私は旗持ちをさせていただき、地域の皆さんの一員になれたような嬉しい気持ちになりました。この経験は一生忘れることのない思い出です。(2年女子)

● 特に印象的だったのは、見守る周りの方々や神輿を巡行する方がとても笑顔だったことです。もちろん暑い中で厳しさもありましたが、祭り全体として明るい声と表情にあふれていました。伝統が時代とともに変化しながら受け継がれていることに、心を打たれました。(2年女子)